

**早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター**  
**第2回ふくしま浜通り文化育成と発信事業ワーキンググループ会合**  
**議事録**

日時：2019年10月7日 18:00～20:30

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 19号館 713会議室

記録：朱 鈺

### プログラム

18:00～19:00	議題1 講演と討論 ヴィヴィアン佐藤（美術家、非建築家、ドრაァグクイーン） 「七戸町ドラキュラ de 町おこし事業の紹介」
19:00～19:05	休憩
19:05～20:20	議題2 ふくしま浜通りアートミュージアム&ラボ事業について
（19:05～19:25）	大手信人（京都大学大学院情報学研究科・教授） 気流部「時の封～ひろの2120」について
（19:25～19:45）	山岸清之進（プロジェクト FUKUSHIMA!・代表） 「フェスティバル FUKUSHIMA! in 広野」について
（19:45～20:20）	永井祐二（早稲田大学環境総合研究センター・研究院准教授） ふくしま浜通りアートミュージアム&ラボ事業申請について
20:20～20:30	議題3 今後の日程

### 議題1 講演

#### ヴィヴィアン佐藤

#### ボトムアップの地域アートプロジェクト：七戸町ドラキュラ de 町おこし事業

- ・七戸町は青森県の東部に位置し、核燃料サイクル施設のある六ヶ所村から42キロメートルしか離れていない町である。隣の大きな商業都市である八戸市とは人口規模や気候が全く違い、町民の気質もかなり違う。そのような七戸町の地元住民は町の固有の魅力に気がついていなかった。
- ・地域の魅力を考えての結果、地域特産のニンニク、トマト、ヒナコウモリ、中世のお城という4つの地域固有の要素を発見することができた。その結果、2014年にニンニクから連想したドラキュラをキーワードにした町おこし事業を始めることになった。住民は最初、事業に対してネガティブな態度であった。私は、画家・ピカソによって始められたキュービズムのように、人であれ地域であれ、様々な角度から見るができると考えており、地域社会と人々の潜在的な魅力と価値を見出すため、様々なワークショップを開催した。

#### ①空間についての「じぶん地図」

「じぶん地図」は、ワークショップで住民に自分の家、学校や職場、そしてよく遊びに行く場所の3点を描いてもらい、その途中に様々な目印やものを描き込んでもらうものである。住民自身が今まで経験したことや、これから起きてほしい「未来」や「願い」を書き込むことで、自分と世界とのつながりを目に見える図やイラストで地図の上に表現するものである。

#### ②時間についての「ここではない<ここ>にいる人へのラブレター」

このワークショップは、「ここ（いま）」ではない、既に存在しない「過去」、もしくはこれからやってくる「未来」の人々へのラブレターを書くものである。過去・現在・未来は時間の流れ通りに順番に発

生すると一般的に認識されているが、我々の生きている「現在」は、既に「過去」や「未来」を含んでおり、言い換えれば、過去・現在・未来が共存している。ワークショップはこの考えに基づき、現在の地域とそこに住んでいる人々のアイデンティティを捉え直すことを目的としたものである。

### ③語り手プロジェクト

七戸町に根付いている観音信仰の歴史について、住民に語ってもらうプロジェクトである。このプロジェクトを通して、地域の歴史を文献として残すだけでなく、映像として撮影することも実施し、住民の喋り方や立ち振る舞いなどを全て記録した。

### ④ダンボールハウス

商店街の小売店をダンボールで制作するという子供向けのプロジェクトである。大手スーパーの統一的な店舗の様子とは異なるオリジナルな店構えをダンボールで作出し、そこで子供にロールプレイをしてもらう。

### ⑤ボロ文化

この地域には、着物などをつぎはぎして何十年も着ていくというボロ文化がある。ワークショップで地元の婦人たちが毛糸で小さなカバーを織り、それで自転車や電柱を包む。「早い・強い・大きい」商業経済が一番だと思われてきたが、毛糸のカバーのような繊細なもので商業経済の道具を包むことは、普段は重視されていない「ゆっくり・繊細・小さい」という価値観を表現している。

以上の5つのワークショップの他に、七戸町で子供をドラッグクイーンに変装させる七戸キッズ DQ プロジェクトを実施した。世界中で LGBT が話題になっているが、マイノリティには性的基準だけでなく、個性や価値観も含まれている。人間には様々な価値観や個性があり、特定の線引きをすることには意味がないと考えている。七戸町の子供も同じように、自分の価値観と個性を持っていて、それを理解してくれない人が多くいる。キッズ・ドラッグクイーン・プロジェクトを通して、子供たちの普段見られない個性を表現することを考えた。

## 議題 2 ふくしま浜通りアートミュージアム&ラボ事業について

### 大手信人

#### 「気流部「時の封～ひろの 2120」について

- ・このプロジェクトは、アートプロジェクト気流部代表・森野晋次さんが発案し、森林生態学者・大手が監修したプロジェクトである。このプロジェクトを通して、福島県の森林の多面的な価値や原発事故後の森林汚染を人々に考えてもらい、地元住民に地域の自然の美しさを再発見してもらいたいと考えている。
- ・プロジェクトの内容は、地域の四季の植物を採集し、ラミネート加工でフィルム化し、地域固有の時間をイメージした「時の封」を制作する。プロジェクトでは、植物採取およびフィルム作品作りワークショップを開催し、地元住民とともに話しあいながら作品を制作する。最終的なインスタレーションは、旧広野幼稚園の空間を活用し、そこで4週間ほど展示する予定である。

### 山岸清之進

#### 「フェスティバル FUKUSHIMA! in 広野」について

- ・2ヶ月という短い準備時間であったが、演出者の日程を調整することができ、10月27日に旧広野幼稚園の園庭でこのイベントを開催することとなった。
- ・広野町には広野音頭という地元伝統の盆踊りが存在していた。ただ、震災後にはお祭りが開催されていないという状況にある。今回のイベントでは、音楽家の大友良英さんにより広野音頭をアレンジして演出する予定である。また、広野鼓舞者という地元の太鼓演奏団体が、プロジェクト FUKUSHIMA!

のアーティストたちと共に演奏する予定である。

## 永井祐二

### ふくしま浜通りアートミュージアム&ラボ事業申請について

#### ・概要

- 事業枠組み：中小企業庁-賑わい回復支援事業
- 事業名称：ふくしま浜通りアートミュージアム&ラボ事業
- 申請主体：NPO 団体広野わいわいプロジェクト
- 助成金額：1,000 万円
- 事業実施期間：交付決定日～2020 年 3 月 31 日
- 事業内容：①大風呂敷盆踊りイベント  
「フェスティバル FUKUSHIMA! in 広野」  
②アートコミュニケーション企画  
気流部「時の封～ひろの 2120」  
③来訪者へのアンケート調査

- ・今回は広野町を主体にして申請したが、事業名称の「ふくしま浜通り」のとおり、今後は広野町に限定せず、福島県浜通り地域の他の自治体でも地域アートの活動を行い、広域的展開としたい。

## 安部 良

### ふくしま浜通りアートミュージアム&ラボ事業申請の経緯

- ・2019 年 5 月 24 日に開催したふくしま浜通り芸術祭準備懇談会の議論を踏まえ、6 月 14 日に「ふくしま浜通り文化育成と発信事業ワーキンググループ (WG)」が発足した。本 WG は、従来の主流的な大型芸術祭ではない地域アートを、浜通り地域で広域的に展開する新たなアプローチを模索している。
- ・気流部「時の封 2120」については、WG メンバーの森野晋次さんと 5 月の懇談会に出席した大手先生が企画し、広野町に企画書を提出した。広野町には本プロジェクトに賛同してもらっている。一方、大風呂敷・盆踊りについては、ふくしま広野未来創造リサーチセンター長の松岡先生が 10 月 27 日のふたば未来学園高校の学園祭と併せて、広野町でも大風呂敷・盆踊りをするという提案を受け、WG 座長 (安部) がプロジェクト FUKUSHIMA! 代表の山岸さんと相談し、開催の合意をしたものである。
- ・本来は WG で話しあいながら活動を進めるべきであったが、WG 以外の場でも WG 関係の皆さんが浜通り地域における地域アートの展開をめぐる議論しているため、この 2 つのプロジェクトが先駆事業として生み出された。そして、本プロジェクトの実現のため、中小企業庁の助成金へ応募することとなった。

## 総合討論

**大手:** ヴィヴィアンさんが地元で調査する際に、写真集の作成や動画撮影などで記録を残すことは非常に良いと思う。記録を残したほうが住民からフィードバックをもらいやすい。

**ヴィヴィアン:** 地元での活動はフィードバックをもらいながら、やりっぱなしをしないようにしている。

**藤城:** 子供たちのドラッグクイーンの衣装をした写真が印象深かった。撮影場所が大事であるが、その場所はどうか決めたのか。

**ヴィヴィアン:** 場所は私が決めた。子供は地元の魅力に気づいておらず、地域への愛着も薄い。

**安部:** 大手先生と森野さんによるアカデミックとアートを結合したプロジェクトによって、今後どのような新しい効果を生み出すのかを期待している。また、プロジェクト FUKUSHIMA! は福島県中通り地域を拠点としたイベントであったが、今回浜通り地域で展開していただけることに感謝したい。プロジェクト FUKUSHIMA! の活動が広野町で展開された理由には、広野鼓舞者のような地域でのカウンターパートの存在もあったと思われる。地域で活動を展開することにおいて、アーティストだけではなく、地域でのカウンターパートを作り、連携することが重要である。

**中嶋:** ヴィヴィアンさんにお聞きしたい。七戸町の町おこし事業において、一番の困難は何であったのか。また、それをどのように乗り越えたのか。

**ヴィヴィアン:** 最初は町の行政から頼まれた仕事であったが、現在は自分で行っている。事業最初の1年目は住民に理解してもらえず、最も大変な時期であった。しかし、活動を展開するにつれて成果を出したら、住民に理解してもらうようになり、付き合いやすくなった。取り組みを継続することが重要である。

**オブザーバーA:** ヴィヴィアンさんがこの事業を始めるきっかけは何か。

**ヴィヴィアン:** 文字でなく、高齢者の語り方や考えなどを含めた、生きている歴史を直接的に聞きたいことが、事業を始めた動機である。

**山岸:** このような地域のまちづくりにはよそ者が入りにくいイメージがあるが、ヴィヴィアンさんはドラッグクイーンという特別な個性を活かし、地域に溶け込むことができた。浜通り地域は七戸町と同じような都会から離れた田舎であり、地域アートを展開するためにはヴィヴィアンさんのような地域に溶け込める人が必要である。

**大手:** じぶん地図のワークショップは興味深い。文化人類学にもマッピングの手法がある。住民に共有の空間を地図作成によって表現してもらい、そのことで共通の価値観や共通の問題が見いだせる。

**松岡:** 原発事故から8年半が経過したが、福島県浜通り地域は復興補助金や廃炉産業に依存している。浜通り地域の人々に自分で地域の新しい魅力を創り出してほしいが、なかなか難しい。しかし、よそ者が代わって何かしてあげることもよくない。また、よそ者は地域の人々のサポート役であるべきであるが、地域の事情がよく分からないため、結局、地域に反発されることもある。今日、ヴィヴィアンさんが紹介した先進事例を参考にし、地域内外に共感できるような地域アートを創り出したいと思う。

**ヴィヴィアン:** インフォーマルな形でもいいから、住民のニーズや希望を直接的にヒヤリングすることが大事である。

**天羽:** 七戸町の事例で、ヴィヴィアンさんは時間をかけて丁寧に住民と触れあいながら、事業を進めることがとても良いやり方であったと思う。その中で切り口をどのように探したのか。

**ヴィヴィアン:** 幅広い視点から、すべてのことを頭に入れて考えていた。

**山口:** 従来の「早い・強い・大きい」を求める経済でなく、より「ゆっくりで・繊細で・小さい」経済を求める考え方が印象的であった。また、以前、浜通りで感じた避難指示区域とそれ以外の場所の間に存

在する断絶感を思い出し、ヴィヴィアンさんのように、町おこしの活動はこのような社会的断絶も含め全般的に考える必要がある。

**中野:** 事業を通して、地元住民が七戸町に対する意識がどう変わったのか。

**ヴィヴィアン:** 住民は事業の成果に対する外部からのフィードバックをもらうことができ、そこから変わった部分があると思う。

**安部:** 「ゆっくりで・弱くて・小さい」という価値観を色々な切り口で掘り下げ続けている活動の中にヴィヴィアンさんの生き様が見えてくる。目に見える「早くて・強くて・大きい」成果を求められる現実社会の中にいると、思ってもなかなか出来ない活動だと思う。

**松岡:** 青森の六ヶ所村も福島の浜通り地域も、巨大な科学技術施設に 50 年ちかく依存してきた。今、浜通り地域は復興と言いながら、依然として復興補助金や廃炉産業に頼っている。その矛盾を抱えたままでは自律を目指した復興は進まないだろう。そもそも、「ゆっくりで・繊細で・小さい」価値観を持っていた地域に原発を誘致した時点からすでに矛盾していたのかもしれない。その結果、地域内部で分断が起こり、地域復興においてもお互いに足を引っ張ってしまう。地域アートの力でどのようにその分断を乗り越えるのかを考えたい。

**山岸:** 今の大風呂敷・盆踊りイベントの 1 回だけの開催では状況をあまり変えられない可能性が高いが、少なくとも地域に何らかの刺激を与えることはできると思う。

**安部:** 前回の会議で、松岡先生は、浜通りの問題は「何が問題なのかがわからない」ことだと言われていたが、今日の議論で問題の一つが明らかになったような気がする。

### 議題 3 今後の日程

2019 年

11 月中下旬～12 月 第 3 回ふくしま浜通り文化育成と発信事業 WG (広野町 (予))

2020 年

1 月中下旬 第 4 回ふくしま浜通り文化育成と発信事業 WG (最終回)

1 月 26 日 (日) 第 5 回ふくしま学 (楽) 会 (檜葉町ならば CANvas (予))

以上